

みんなで考える厚岸町の10年後 夢が広がるまちづくりワークショップ 結果報告書（第1回）



厚岸町

目的

平成22年度に策定された第5期厚岸町総合計画が、平成31年度をもって終期を迎えます。

総合計画とは、厚岸町が目指すべき将来像を、10年先を見据えて総合的に策定するものであり、その策定に町民の意見は欠かせません。

本ワークショップは、新たな総合計画を策定するにあたり、町民の方々のご意見を広く反映すべく開催するものです。

10年先を見据え、これからの厚岸町をよりよく発展させるべく、ワークショップで生まれた町民の方々のご意見を検討し、その中から、新たに策定する厚岸町総合計画にふさわしい意見を選考し、反映させていただきます。

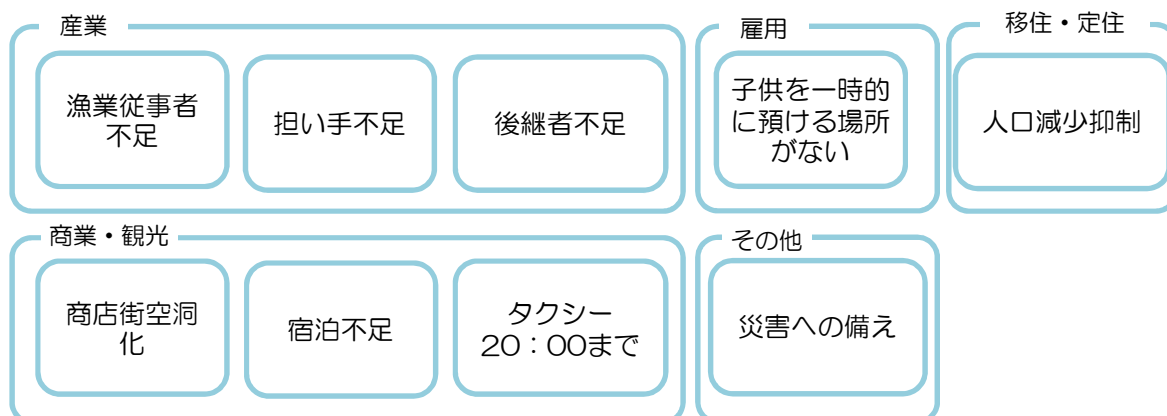
第1回となる今回のワークショップでは、「産業、観光、雇用、移住・定住」の分野について、意見交換を行いました。

概要

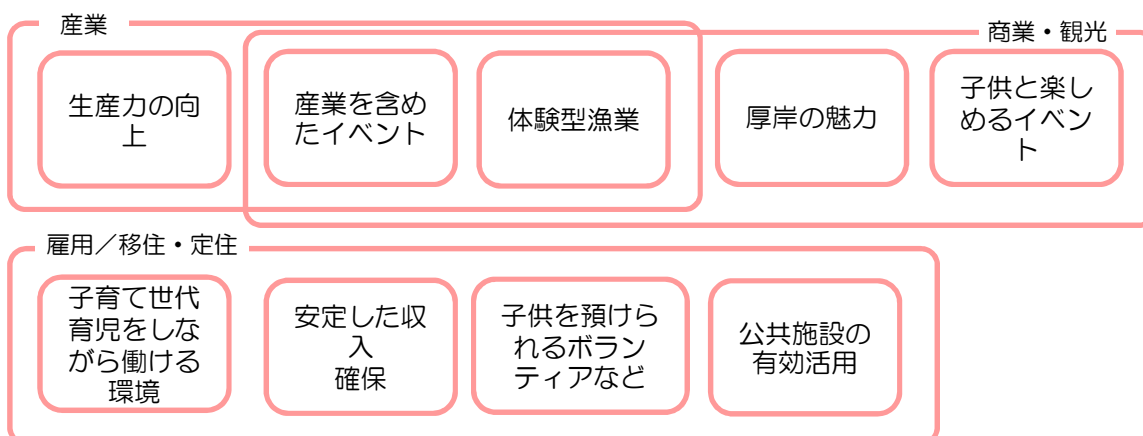
- 日 時：平成30年9月29日（土） 15：00～17：00
- 場 所：厚岸情報館 2階 視聴覚室・会議室
- 対 象：厚岸町民
- 主 催：厚岸町
- グループ：6グループ（計37名）
- テーマ：にぎわいに満ちた活力と魅力あるまち厚岸

A班

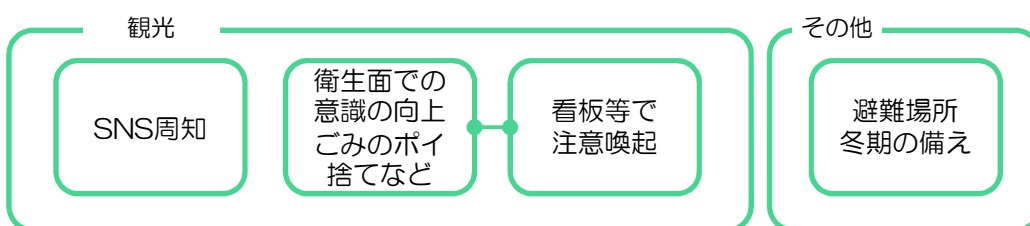
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

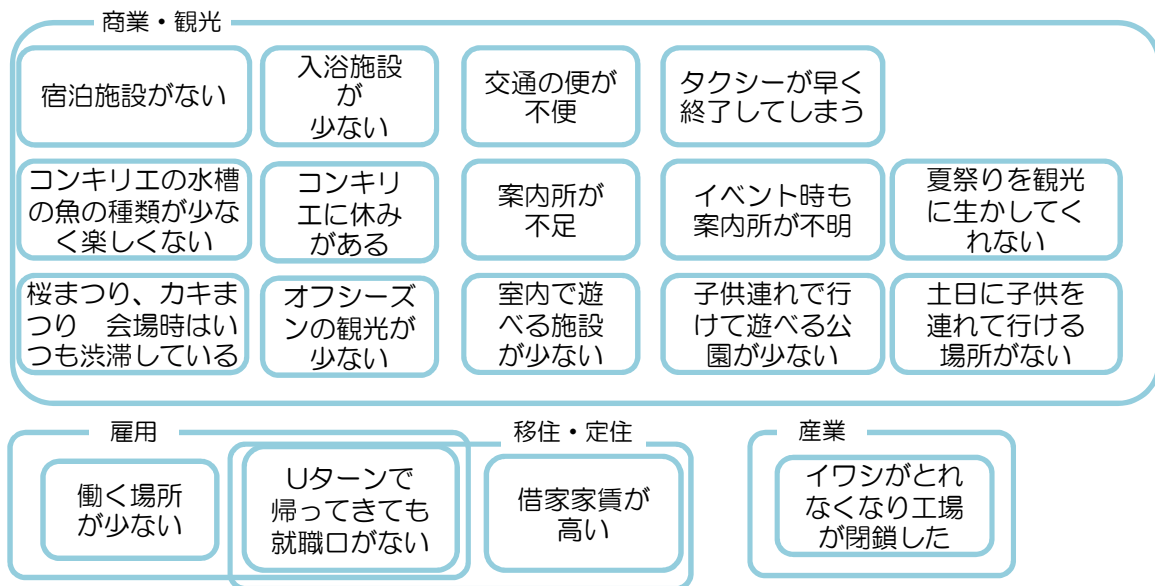


A班のまとめ

産業では酪農と漁業が主体であるものの、漁業従事者が不足しているほか、後継者や漁船の乗組員も不足している。また、商店街に空き店舗が多く、閑散としていて、人口減少の抑制が課題となっている。町内には、子どもを預ける場所が少ないため、母親が働くことが難しく、楽しく子育て出来る環境づくりが必要だ。観光では、町の魅力を発信するイベントの開催や、SNSを利用したPRをしてはどうかと提案があった。さらに、観光客にきれいな町と思ってもらうため、清掃に加え、行政には看板等で注意喚起してほしい。震災でブラックアウトした際、現実を受け止められなかった。その教訓を生かして避難場所の備えをしてほしい。

B班

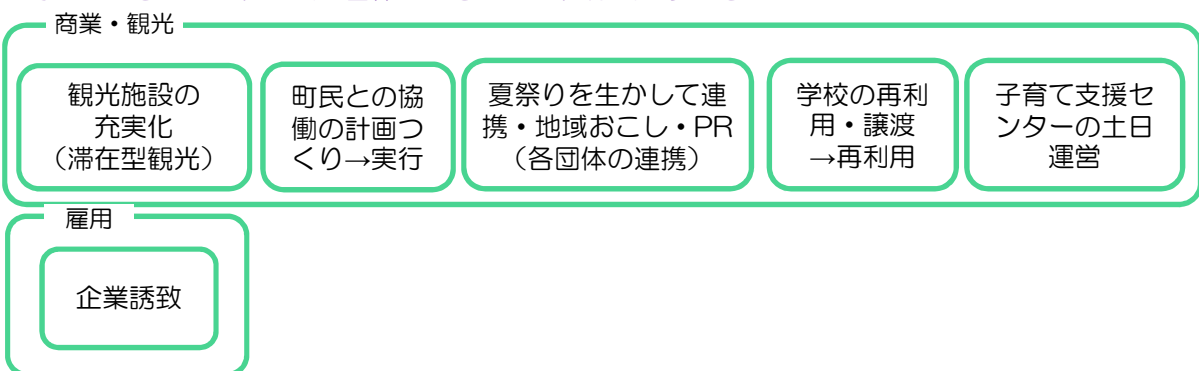
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

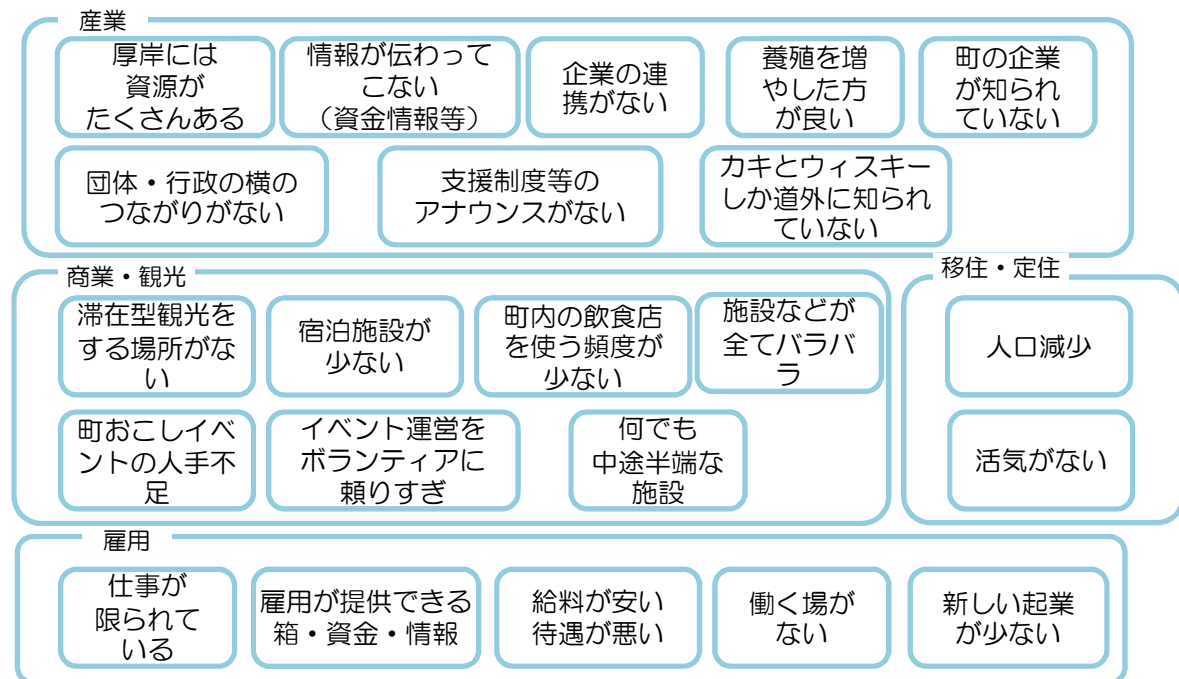


B班のまとめ

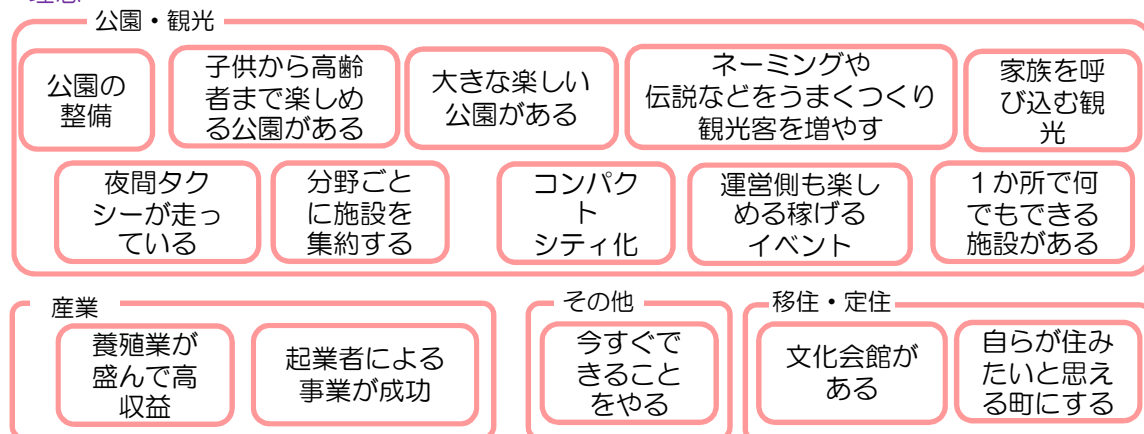
宿泊・入浴などの施設や、働く場所も無いため、人が集まりづらい。子育て世代が子どもを連れて行ける屋内の施設がないため、子育て支援センターを土日も運営してはどうかという意見があった。観光では、夏祭りの実行委員以外の町民の協力を得て、お祭りをもっと大きくし、観光に生かしたい。また、夜間の代行タクシーや週末のバスを運行してほしい。雇用がないと、町に人が残らないため、企業誘致を行い、雇用や人口の増加につなげることが望まれる。

C班

現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



C班のまとめ

4分野以外の意見も沢山上げられた。産業に関しては、仕事に限られ、企業の連携があまり見られないという意見があった。また、町内の企業が町民にあまり知られていない。雇用に関しては、給与が低いため、待遇改善が必要と考えられる。観光に関しては滞在施設などがなく、既存の施設も点在しているため、まとまりがない。民間イベントのボランティアも人手不足な状態だ。

収入も良い養殖に力を入れたり、大きな公園を整備するなど、今すぐ出来ることを始めるべき。町民自ら、町に興味を持ち、自ら住みたいと思える町にする必要がある。

D班

現状や実体験

産業

一次産業は
人手不足

漁業はキツイ・
汚いなどイメー
ジが悪い

農業における
離農や後継者
問題がある

商業・観光

丸一日厚岸に
いても楽しめる
施設がない

厚岸に来たけ
ど、すぐ遠出
してしまった

町の商店もや
る気がないし、
町民も利用す
る気がない

移住・定住

親の年代が厚岸の
良さを理解してお
らず、町で働きた
い若者が少ない

移住したいと
思う町なの
か？受入体制
等

その他

素晴らしい資
源が生かされ
ていない

それぞれがバラ
バラで調整する
ような仕組みが
ない

理想

観光

自然を生か
した
観光

食の分野から入り
込み、つながりを
更に拡大

立寄り型
→滞在型へ

町の歴史や文
化にふれる機
会を増やす

雇用

滞在型の施設
があれば雇用
も促進される

産業

水産業
特にカキ
は◎

酪農
極みるく発表か
ら更に期待

林業
結び付きから更
にアピールを

雇用と技術技
能の習得は
死活問題

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

観光

厚岸の自然の
良さを生かす

定休日の対応
(案内所の充
実)

雇用／移住・定住

働く場、所得
子育て環境
医療費無料など

その他

意識改革の
ための教育

人材・人の
力・人のつ
ながり

D班のまとめ

全分野の政策がバラバラなので、もっと結び付くことで、素晴らしい環境・資源を生かしたい。商店街の活性化については、商店側も土日営業をしたり、お客さん側も町内で買物をするなど、積極的に盛り上げる必要がある。産業については、人手不足で（特に酪農）雇用を促進する必要がある。食をメインとした観光から人を取り込み、それに付随する形で観光も盛り上げたい。町を盛り上げようという町民への意識付けが必要である。

E班

現状や実体験

産業

酪農業は収入もよいが後継者がいない

サンマが獲れるとにぎわいが出る（運送業など）

カキ漁師は後継者がいる

カキの他ウイスキーも

カキというブランドを守っていききたい

商業・観光

観光を含め魅力を知ってほしい

食のPRを行う

食のPRの最終目的は？利益？集客？

まずは人を呼びたい

イベントは十分な集客がある

移住・定住

翔洋高校10周年を迎えた。20年までもつか

役場も町外の職員が増えている。町内から受験しない

高校・大学への進学で町を離れる

雇用

仕事があっても若者がいない

働く所が少ない
応募も少ない

理想

商業・観光

滞在型の観光

宿泊施設の充実

ウイスキー工場を町民が気軽に見学できないか

タクシーの営業時間の延長

買物が町内で完結できる

商業施設に遊具がほしい

遊具等がある公園がほしい

産業

雇用／移住・定住

地元の子供が地元に残る

障害者に対する雇用の受入

獲るべき時期に水揚げがあったほうが良い（サンマ）

町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと

観光

町民が町のイベントに協力してほしい

商業

できるだけ町民が地元で買物をする行政も

行政と商工会が協力する

経営者は集客のため努力すべき

経営者や町民が気軽に相談できる窓口がほしい

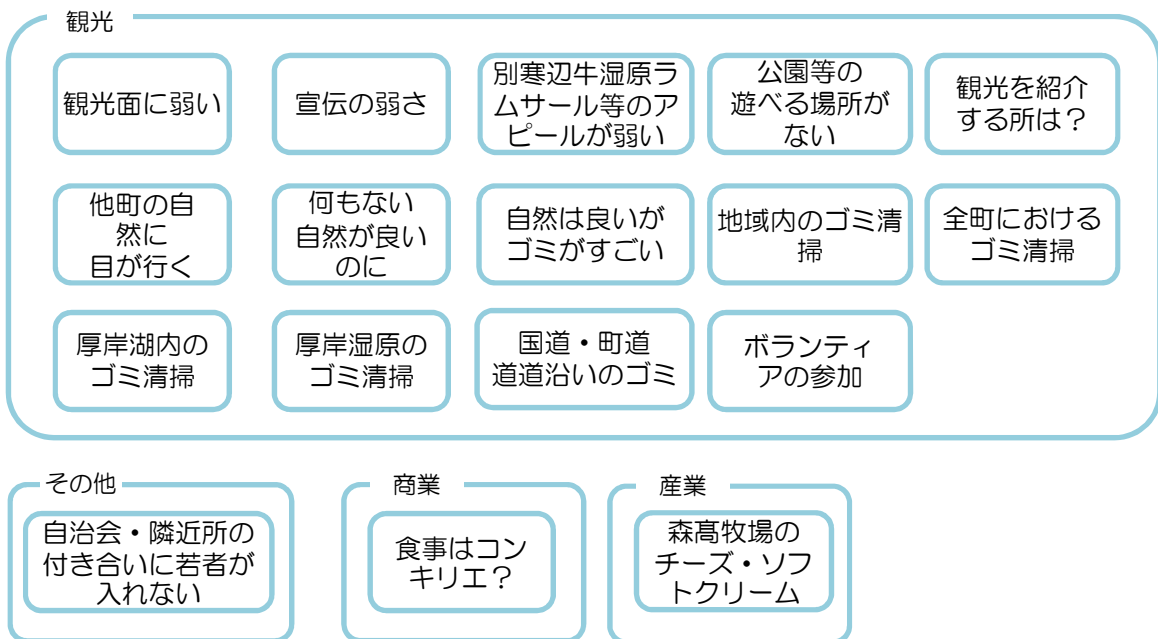
E班のまとめ

観光ではカキやウイスキーなど食でPRしたいが、最終目的が利益か集客かを決めておくべきだと感じる。酪農や水産業では、業種の特殊性により世襲制でないと難しいものもあり、後継ぎ問題が課題だ。一次産業の振興を図らないと、それに付随する加工業や運送業が成り立たなくなってくる。雇用では、地元を知る若手が進学などで町を離れてしまい、役場も含め町内に就職する人が少ない。町民が町の良さを知らない。

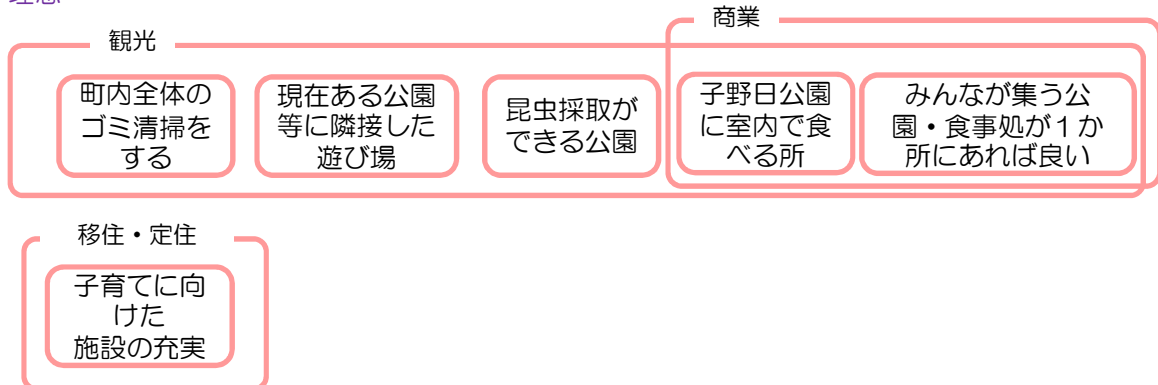
理想は、サンマが安定的に獲れると、漁業や付随する産業も安定する。観光では、滞在型の施設や交通手段を確保して欲しい。町民の地元に対する意識改革をして、町内に残って欲しい。町民が町のイベントに協力するための受皿も必要だ。

F 班

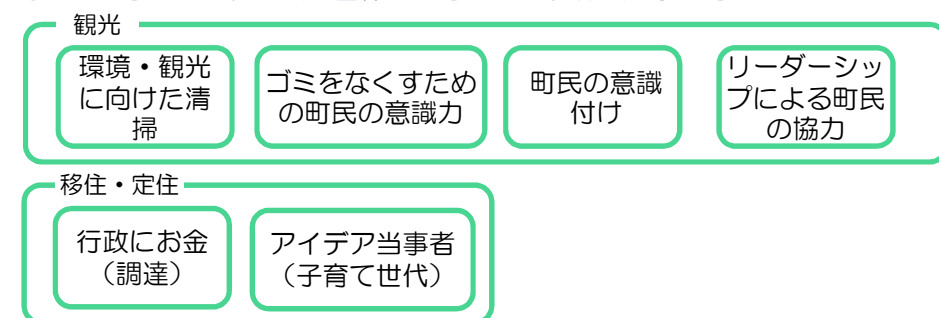
現状や実体験



理想



町民ができること、地域・団体ができること、行政がすべきこと



F 班のまとめ

観光では、Uターンした人から「厚岸は自然に加えて、食もアピールできる」という声がある。また、自然を大切にするという意味で、ごみ清掃も実施しているが十分ではないため、町民全体で清掃をするなど、意識付けをしてはどうか。子育て世代が集まるような大きな公園（遊具）や施設が無い。他の市町村からも集客できるようなアイデアを当事者（子育て世代）から集めてはどうか。行政にはそのためのお金の調達をお願いしたい。

第1回ワークショップのまとめ

第1回は、産業、観光、雇用、移住・定住の分野についてワークショップを開催しました。産業の振興は雇用を生み、雇用があることは、移住・定住へとつながります。また、観光を通して町の魅力を知ること、厚岸町への移住につながります。このように、個々の分野が相互に関連する内容となっております。第1回ワークショップのまとめは、以下のとおりです。

産業

漁業や酪農といった第1次産業において、担い手や後継者が不足しているという意見が複数上げられました。町内には第1次産業に付随した運送業や加工業も営まれていることから、産業全体の振興を図るために、担い手や後継者を確保することは喫緊の課題です。

また、観光と関連して、観光客が第1次産業を体験できるような、体験型観光の商品化を求める声も上がりました。このように、カキやウィスキーといった、すでに知名度の高い特産品を大切にするとともに、新たな魅力あるものの創造や、そのPRが求められています。

観光と商業

観光客を呼び込み、滞在してもらうためにも、商業施設や宿泊施設、大きな公園の整備、夜間タクシーの運行などを求める意見が複数上げられました。これと同時に、観光客に、町に好感を抱いてもらえるよう、ゴミ清掃など環境の美化を推進することも課題です。

また、新たな観光客を呼び込むためにも、多くの町民から協力を得て、町外の方が思わず訪れてみたくなるようなイベント等を開催することや、SNS等を通じてPRを積極的に行っていくことが求められています。

雇用と移住・定住

働く場所が少ない、職種が限られている、給与や待遇が悪いといった意見が上げられました。子どもたちに地元に残り続けてもらうためにも、Uターン・Iターンを受け入れるためにも、起業の促進や企業誘致を推進するとともに、雇用環境の改善を図る必要があります。

また、移住・定住を推進するためには、子育て世代にとって魅力的な町であることが重要です。現状では、子どもを預けられる施設が少なく、子育て世代が働くには難しい環境であるとの意見も上げられており、こうした方々のアイディアを取り込んだまちづくりを推進することが求められています。

みんなで考える厚岸町の10年後
夢が広がるまちづくりワークショップ
結果報告書（第1回）

発行年月：平成31年2月

発 行：厚岸町

編 集：厚岸町総合計画策定委員会（まちづくり推進課 企画調整係）

住 所：〒088-1192 厚岸郡厚岸町真栄3丁目1番地

電 話：0153-52-3131

F A X：0153-52-3138